

下仁田高等学校学校評価一覧表①(平成31年度(令和元年度)版)(様式1)

| 羅 針 盤 | | | 方 策 | 第1回 点検・評価 | | | 第2回 点検・評価 | | |
|--------------------------------------|---|--|---|---|--|---|--|---|--|
| 評価対象 | 評価項目 | 具体的数値項目 | | 自己評価 | 外部アンケート等 | 改善策 | 自己評価 | 外部アンケート等 | 改善策 |
| I 特色ある学校づくりに努めていますか。 | 1 特色ある教育活動を行っていますか。 | ① 自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。 | <p>コースの特色を生かし、生徒の興味・適性にあった授業を工夫する。また、生徒が興味・関心をもって取り組める教育課程を検討する。</p> <p>学習内容の効果的な定着を図れる授業の展開と学習に集中できる環境づくりを行う。</p> <p>「総合的な学習(探究)の時間」「課題研究」、学年別体験学習・講演会等の機会に地域の方を講師として交流を図るとともに、地域に対する視野を広げる活動を推進する。</p> <p>地域の団体・施設等と連携し、「ぐんまコミュニティー・ハイスクール事業」等の地域と連携した事業や諸活動に意欲的に参加した生徒が70%以上である。</p> | B | 生徒C 保護者A | 生徒の声に耳を傾けられる時間(二者面談)やアンケートの結果を生かし、行事の見直しや授業改善に努める。 | B | 生徒C 保護者A | 様々な体験学習を取り入れコースの特色を活かすことで、達成感を得られるような指導を今後も継続していく。 |
| | | ② 習熟度別や少人数制の授業形態に満足している生徒が80%以上である。 | | A | 生徒A 保護者A | より満足する学習環境づくりを各教科担当者が実践し、生徒の充実度を高める。 | A | 生徒A 保護者A | 授業形態や学習環境維持に今後も努め、生徒の実態にあった指導を推進する。 |
| | ③ 「総合的な学習(探究)の時間」や学年行事等に地域に密着した学習を取り入れ、その学習活動に意欲的に取り組んだ生徒が70%以上である。 | A | | 生徒A 保護者A | 結果に満足せず、今後より充実した内容(地域との連携を強化)になるよう、委員会を中心に対応する。 | A | 生徒A 保護者A | 地域に必要とされる学校づくりを理念に改善を図り、地域の持つ財産を活用できるようにする。 | |
| II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。 | 3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。 | ④ 「ぐんまコミュニティー・ハイスクール事業」等の地域と連携した事業や諸活動に意欲的に参加した生徒が70%以上である。 | <p>教員相互の授業参観や研修を重ね、授業改善に努める。また、生徒の学習状況をみとり、情報の共有化を図る。</p> <p>学習習慣の確立や資格取得の重要性を保護者にも理解してもらい、積極的な取組を促す。</p> | B | 生徒B 保護者B | <p>希望者だけでなく、全員がかかわれる行事を検討する。</p> <p>調査問題の結果や評価を参考に授業改善に活かす。また、授業アンケートの結果を活用し、授業改善に努める。</p> | B | 生徒C 保護者B | <p>事業や諸活動の内容を明確化、視覚化した上で声かけを行い多くの生徒の参加を促す。</p> <p>新しい学習指導要領に対応できるように授業の形態や構成などの研修を行い授業改善につとめていく。</p> |
| | | ⑤ 「学び直し学習」や「学び合い学習」を取り入れた授業がわかりやすいと考えている生徒が80%以上である。 | B | 生徒A 保護者B | 資格取得に向けて、コース全体で取り組む体制を整備する。 | B | 生徒B 保護者B | 進学希望・就職希望と様々な進路希望に対し、個別の対応をさらに進める。 | |
| | ⑥ 多様な進路に対応した学習が役立っていると感じている生徒が70%以上である。 | B | 生徒B 保護者A | 授業規律の確保に努めるとともに、生徒が主体的に学習できる環境について検討する。 | B | 生徒B 保護者B | 引き続き授業規律の確保に努めながら、生徒の実態にあった学習環境の改善に努める。 | | |
| III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。 | 4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。 | ⑦ 授業に真面目に取り組んでいると自己評価している生徒が80%以上である。 | <p>主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業を実践する。</p> <p>授業の中で基礎的内容を反復学習させたり、生徒の理解度を向上させる工夫を試みる。</p> | B | 生徒B 保護者B | <p>引き続き教科・学年が連携し、授業計画の見直しを進めるとともに個々の生徒に必要な支援を行う。</p> <p>面談週間に限らず、授業・清掃・行事等での教師からの声掛けを実施してくとともに、スクールカウンセラーとも連携を図り、生徒の不安解消に努めていく。</p> | B | 生徒B 保護者B | <p>情報共有化を図り全職員が不安をかかえる生徒への対応に努める。一方、スクールカウンセラーや外部機関との連携も深めていく。</p> |
| | | ⑧ 学力の定着を図る指導を充実させ、学力が向上したと自己評価している生徒が70%以上である。 | B | 生徒B 保護者B | <p>設置部活の精選、活動内容の充実などを図り、生徒の充実感が得られるような部活動づくりに励む。</p> <p>事故予測や病気の症例など実生活で身近な具体例を盛り込んだ講演会を実施した。今後も、生活に生かせる内容を工夫していきたい。</p> | B | 生徒B 保護者B | <p>設置する部活動を精選し、活動内容の充実を図ることで、生徒の充実感が得られる部活動づくりを継続して行う。</p> | |
| | ⑨ 生徒とのコミュニケーションを図り、年3回以上の面談指導を行い、面談が役立ったと感じている生徒が70%以上である。 | B | 生徒B 保護者B | <p>生徒の実態にあった講話内容を実施し、生徒が自分自身の事として考えられるようにする。</p> <p>家庭との連絡を密にし協力を求め、無断遅刻者には作文指導を実施する。</p> | B | 生徒B 保護者A | <p>学校保健委員会は生徒の活動が良好で成果も素晴らしく継続発展したい。今後も各種機関との連携を密にし、各種安全教育を行っていく。</p> | | |
| IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。 | 5 組織的・継続的な指導を行っていますか。 | ⑩ 部活動に加入し、継続的に活動している生徒が50%以上である。 | <p>連帯感・帰属意識を持たせるとともに、部活動の意義を周知させ、積極的な入部を勧める。</p> <p>生徒の実態にあった講話内容を実施し、生徒が自分自身の事として考えられるようにする。</p> | B | 生徒B 保護者B | <p>遅刻については大幅な改善がみられているので、今後も指導を継続していく。学校へ来ることの意義を見いだせるような魅力ある学校づくりに努めていく。</p> | C | 生徒C 保護者C | <p>遅刻指導は継続して行っていく。長欠者には密な連絡、家庭訪問などを行い、保護者との連携を強めていく。また、外部機関との連携も随時図っていく。</p> |
| | | ⑪ 情報モラルや交通安全、健康に関する講話等が役立ったと評価する生徒が70%以上である。 | B | 生徒B 保護者A | <p>多くの生徒が校内ルールを遵守して学校生活を送れている。今後、進路との関連をより強く意識付け、生徒自らが自主的に規範意識を向上できるようにしていく。</p> <p>アンケートや面談の機会に限らず、生徒からの申し出や情報に対して今後も迅速に対応していく。また、職員間の情報共有をより密にして、生徒が安心して登校できる雰囲気作りにも今後取り組んでいく。</p> | A | 生徒A 保護者A | <p>指導方法の改善をし、服装・頭髪指導の充実、授業規律の徹底、日常生活における声掛けなどを根気強く行い、生徒の規範意識向上に努める。</p> | |
| | ⑫ 生徒の欠席・遅刻を減らし、欠席率5%以下、遅刻率3%以下である。 | A | 生徒A 保護者A | <p>進路等に関する記録を進路ファイルに保管させることにより、生徒の進路意識を高め、将来の進路選択に役立たせる。各学期ごとに進路行事を行い、生徒の進路に対する興味・関心を引き出す。</p> <p>進路ファイルを活用し、進路について毎月何らかの取組を設け、実践させることにより、将来についての意欲を喚起する。『進路のてびき』を家庭用にも配布し、生徒と保護者で進路に対する共通認識を深めてもらうよう働きかける。</p> | A | 生徒A 保護者A | <p>アンケートや面談等による情報集約の徹底を行い、職員間の情報共有をより密に行うことで、早期発見・早期解決に努めていく。また、生徒が主体となつていじめ防止に取り組む活動を増やし、いじめを許さない心を育てていく。</p> | | |
| V 開かれた学校づくりに努めていますか。 | 6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。 | ⑬ 本校で定めた服装・頭髪に関するルールを遵守していると考えている生徒が70%以上である。 | <p>生徒会生徒を中心に、登校時の「あいさつ運動」を週1回以上実施する。また、学年においては、いじめ防止フォーラムなどへの参加の呼びかけを随時行っていく。</p> <p>WEBページや学校通信等を利用して保護者や地域に情報を発信するとともに、授業を一般公開していく。また、全学年で三者面談を行い、学校と家庭で情報の共有化を図る。</p> | A | 生徒A 保護者A | <p>進路ファイルの取り組み状況についての確認を(進路指導部として)各学年に促していく。</p> <p>進路の行事を精選し、より興味・関心が引き出せるようにする。</p> | A | 生徒A 保護者B | <p>各学年で新学期当初から進路指導が進められるようにする。</p> |
| | | ⑭ 仲間を受容し、いじめを絶対許さない雰囲気づくりに努め、学校はいじめの防止と早期発見を積極的にに行っていると感じている生徒が85%以上である。 | B | 生徒C 保護者A | <p>生徒の進路に対する現在の考えを家庭でも把握できるように工夫していく。</p> <p>家庭での話し合いの結果を、記録に残せるように、進路ノートに記入させていく。</p> | A | 生徒A 保護者A | <p>役立つ情報提供を心掛けるとともに、「進路のてびき」を積極的に進路学習に活用する。</p> | |
| | ⑮ 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいる生徒が70%以上である。 | B | 生徒A 保護者B | <p>WEBページや学校通信等を利用して保護者や地域に情報を発信するとともに、授業を一般公開していく。また、全学年で三者面談を行い、学校と家庭で情報の共有化を図る。</p> <p>定期的なP.T.A運営委員会を開催し、現状に応じた対応策を検討していく。</p> | B | 生徒B 保護者A | <p>ガイダンス等の事後指導を丁寧に行い、進路ファイルにまとめさせる。</p> <p>進路希望調査、面談等で生徒と保護者の進路希望をより正確に把握する。</p> | | |
| 7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にを行っていますか。 | 8 計画的な指導を行っていますか。 | ⑯ 生徒の卒業後の進路について一度でも話し合いをした家庭が70%以上である。 | <p>WEBページや学校通信等を利用して保護者や地域に情報を発信するとともに、授業を一般公開していく。また、全学年で三者面談を行い、学校と家庭で情報の共有化を図る。</p> <p>定期的なP.T.A運営委員会を開催し、現状に応じた対応策を検討していく。</p> | B | 生徒C 保護者A | <p>行事後なるべく早い時期にWEBページを更新することで、地域への広報活動を充実させていく。</p> <p>学校・P.T.A役員・保護者間の連携を図りつつ、保護者への情報発信・呼びかけを継続していく。</p> | A | 生徒A 保護者A | <p>さらなる広報活動を図るため、WEBページの更新を随時行い、本校の特色がよく伝わるようにする。</p> |
| | | ⑰ 「将来の職業」や「卒業後の進路」について前向きに考えている生徒が70%以上である。 | B | 生徒A 保護者B | | B | 生徒A 保護者B | <p>P.T.A行事への参加率向上に向け、行事の点検や見直しを行う。</p> | |